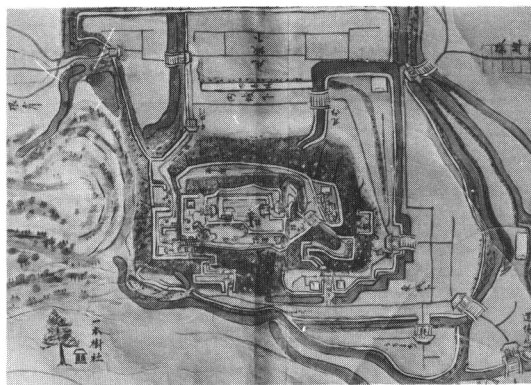


## 長 沼 城

《長 沼》

長沼町の北の山に城があつた。今も城山と呼んでいる。長沼城、千代城、丑ケ城、牛臥城ともいわれた。応永年間、長沼隆時が城を築いて、北古館より移つたといわれる。

のち、晴忠の代に、南北朝の争乱の時、白河結城氏の軍に攻略され落城したという。この時二の丸にある石が武者と化して城を防いだという。



長沼城図

天文十年、会津の城主、芦名盛舜が家を盛氏に譲り、隠居の地を求め、長沼の地に築城を命じた。普請奉行に富田右馬允、桑名掃部兩人に下知せられ、縄を張り、城郭が築かれた。二十三年普請成就後、盛舜は発病してこの城に移らずに終つた。富田、桑名の兩人は城代に仰せ付けられた。丑の入口の故に丑ケ城、応永の頃の古城を再興したので、千代城とも称した。門は寅の門、本坂門、西の門、城下門の中の門とあり、中の門は十八年酉年に作つたので酉の門ともいう。

旧名見付は四ヶ所、北町見付、西沢見付、坂下見付、道場見付、新見付、要害砦は三ヶ所、町中館、南館、西館、丑堀は二十二年丑の春成就したので丑堀といった。